
第17回モニタリング会議 ご説明資料 (2018年4月～12月業績報告)

2019年3月13日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

計画と実績の対比（全社PL）

全社の事業再生計画第4期(2018年4月～12月)実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル(旅行業)」との合算

	2018/4～2019/3月	2018/4～6月	2018/7～9月	2018/10～12月	2018/4～12月	進捗率 ②÷①	2017/4～12月 前年同期 実績	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	9ヶ月 実績②			
売上高	5,506	1,479	1,419	1,498	4,395	80%	4,405	100%
売上原価	575	233	170	243	646	112%	556	116%
差引収益	4,931	1,246	1,249	1,255	3,750	76%	3,849	97%
人件費	2,544	617	728	733	2,078	82%	2,124	98%
厚生費	299	87	109	90	286	96%	291	98%
動力費	524	102	118	105	325	62%	288	113%
修繕費	298	61	76	69	206	69%	213	97%
物件費	108	18	23	19	60	55%	66	91%
経費	1,008	262	229	234	725	72%	757	96%
諸税	105	19	22	18	59	56%	61	97%
減価償却費	512	125	116	137	378	74%	362	105%
営業費計	5,398	1,291	1,421	1,405	4,118	76%	4,161	99%
営業利益	-467	-45	-172	-151	-368	-	-313	-
営業外収益	56	35	14	14	63	113%	77	82%
営業外費用	66	19	13	15	47	71%	51	92%
経常利益	-477	-30	-171	-151	-352	-	-287	-
特別利益	532	4	4	6	15	3%	154	10%
特別損失	0	0	1	0	1	-	118	1%
税引前当期利益	55	-26	-168	-144	-338	-	-251	-
法人税等	16	0	12	0	12	-	13	95%
当期純利益	39	-26	-180	-144	-350	-	-264	-

単位:百万円

計画と実績の対比（全社PL）

<事業再生計画比> ※第3四半期につき進捗率75%と比較

豪雨・台風による影響はあったものの売上高、差引収益は計画を上回る進捗。経費は、軽油単価が平均すると計画比低位推移し、バス事業の動力費が低減したが、人件費・厚生費が計画を上回る。営業損益は計画を下回る進捗ながら、経常利益では計画を上回る進捗。

<2018年4月～12月第3四半期の概況>

【売上高】 4,395百万円となり計画に対する進捗率80%

【売上原価】 旅行事業部門における原価率の高い商品の受注増により計画に対する進捗率112%

【差引収益】 3,750百万円となり計画に対する進捗率76%

【営業費】 動力費では軽油単価が平均すると計画比低位推移による減少はあるも、人件費・厚生費が計画比で増加し、計画に対する進捗率76%

【営業利益】 計画を下回る△368百万円

【営業外収益】 計画比では業務委託料・有価証券配当増などにより、年度の計画をクリア

【営業外費用】 47百万円となり計画に対する進捗率71%

【経常利益】 計画を上回る進捗ではあるが△352百万円

【特別利益】 一部入金はあるが計画上補助金は年度末に計上

【特別損失】 補助金による圧縮記帳分など

【当期純利益】 第3四半期経過時点で△350百万円の赤字計上（補助金収入は年度末に計上）

<対前年同期実績比>

- ◆ 売上高は前年並みであるが、豪雨・台風の影響などによるバス事業の売上減を、原価率の高い旅行事業部門で補う形となり差引収益は減少
- ◆ 営業費用は軽油単価の上昇による動力費増などはあったが、バス事業の人件費減などにより減少
- ◆ 営業損益、経常損益、当期純損益ともに赤字幅拡大

<経費科目説明>

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等 物件費・・・水道光熱費・備用品等
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・固定資産圧縮損等

計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2018年4月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2018/4～2019/3月 12ヶ月	2018/4～6月 第1四半期	2018/7～9月 第2四半期	2018/10～12月 第3四半期	2018/4～12月 9ヶ月	進捗率 ②÷①	2017/4～12月 前年同期 実績	前年 同期比
	計画①	実績	実績	実績	実績②			
売上高	1,064	255	252	242	750	70%	786	95%
売上原価						-		-
差引収益	1,064	255	252	242	750	70%	786	95%
人件費	736	190	218	216	625	85%	647	97%
厚生費	81	26	32	28	86	106%	88	98%
動力費	186	39	47	38	124	67%	106	117%
修繕費	120	25	25	29	78	65%	90	87%
物件費	29	4	6	4	14	49%	17	83%
経費	164	40	38	32	110	67%	119	92%
諸税	25	6	1	3	10	40%	10	99%
減価償却費	116	29	31	37	98	85%	77	127%
営業費計	1,456	359	399	388	1,145	79%	1,154	99%
専属営業損益	-392	-104	-146	-145	-396	-	-368	-
減価償却前専属営業損益	-276	-75	-115	-108	-298	-	-291	-

単位:百万円

<計画差異要因等>

✓ 売上高

- 2017年4月からのスクール線便数減少による減
- " 10月からの安芸線移管による減

✓ 費用

- 人件費:人事制度改正による増、時間外手当増
- 厚生費:人件費増、科目計上ルール変更に伴う増
- 動力費:軽油単価の計画比低位推移等
- 経費:車両清掃委託減、自動車保険料の減等
- 減価償却費:中古車両購入による増

✓ 専属営業損益

- 動力費の低減はあるが、収入の減、人件費の増加などにより、計画を下回る進捗

<前年同期差異要因等>

✓ 売上高

- 安芸線移管による減等

✓ 費用

- 人件費:運転業務数減による時間外手当減
- 動力費:走行キロ減はあるも、軽油単価の上昇により増
- 修繕費:車両更新・減車による減
- 経費:車両清掃委託減、自動車保険料の減等
- 減価償却費:車両更新による増

<専属営業損益とは>

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

<科目計上ルール変更とは>

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2018年4月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位:百万円

	2018/4～2019/3月 12ヶ月 計画①	2018/4～6月 第1四半期 実績	2018/7～9月 第2四半期 実績	2018/10～12月 第3四半期 実績	2018/4～12月 9ヶ月 実績②	進捗率 ②÷①	2017/4～12月 前年同期 実績	前年 同期比
売上高	1,000	267	283	265	815	81%	790	103%
売上原価						-		-
差引収益	1,000	267	283	265	815	81%	790	103%
人件費	562	146	175	175	496	88%	489	101%
厚生費	70	21	26	22	69	98%	68	102%
動力費	77	19	24	20	63	81%	61	103%
修繕費	46	10	15	11	36	78%	41	88%
物件費	22	6	6	5	18	80%	17	105%
経費	60	17	19	17	53	88%	49	108%
諸税	15	2	1	2	5	34%	6	89%
減価償却費	48	11	9	11	31	64%	25	123%
営業費計	902	232	275	264	771	85%	756	102%
専属営業損益	98	35	8	1	44	45%	34	130%
減価償却前専属営業損益	146	46	17	12	75	51%	59	127%

< 専属営業損益とは >

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

< 計画差異要因等 >

- ✓ 売上高
 - 計画を上回る進捗
- ✓ 費用
 - 人件費: 人事制度改正による増、時間外手当増
 - 厚生費: 人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
 - 動力費: 賦課金の燃料調整費増
 - 経費: ですかシステム更新賃借料、美術館通P&R代替地賃借料等による増
- ✓ 専属営業損益
 - 専属営業損益は44百万円(進捗率45%)の黒字

< 前年同期差異要因等 >

- ✓ 売上高
 - 運送収入・運送雑収入の増
- ✓ 費用
 - 人件費: 時間外手当の増
 - 厚生費: 人件費増による増
 - 動力費: 賦課金の燃料調整費増
 - 修繕費: 補助対象減による工事の次年度繰り越し
 - 経費: 美術館通P&R代替地賃借料等による増
 - 減価償却費: ハートラムⅡ等導入による増

< 科目計上ルール変更とは >

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費に計上していたが、実績は、人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

軌道の2018年4月～12月利用状況：運送収入は前年比103%、IC利用客数は前年比100%

- 本表は運送収入のみ
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

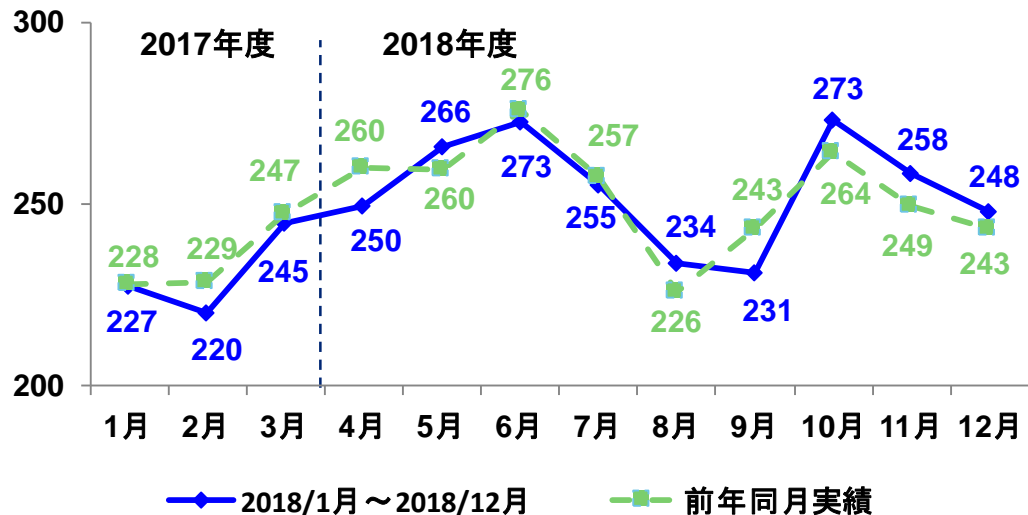
単位：百万円

	2017/10～12月	2018/10～12月	2017/4～12月	2018/4～12月	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	9ヶ月 前年同期①	9ヶ月 実績②	
運送収入	235	237	711	733	103%
①定期全体	62	63	193	194	101%
②定期外収入	173	174	518	538	104%
うち、現金収入	116	116	346	365	105%
うち、SF	57	58	172	173	101%

＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は、前年同期比103%と微増
- ✓ 「雨天日」は、2018年4月～12月で前年比+11日※豪雨・台風を除く
- ✓ 7月学校休、豪雨によるイベント中止、8月・9月運休の影響あり
- ✓ 雨天日が前年比11日多く、志国高知幕末維新博による観光客の入込み、各種利用促進施策の取り組みなどの効果もあり、現金収入を中心に好調に推移した

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比、5月、8月、10月～12月は増加、その他は減少
- ✓ 9ヵ月累計のICカード利用客数は2,288千人、前年同期は2,279千人で100%

・ ICカード「ですか」に基づいており、現金などを除く

・ IC使用率は約50% (利用客数による)

公共交通取組状況

2018年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです

内容	路線バス	軌道
■2018年4月1日～12月末まで		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ですかキャンペーン実施 4月～	○	○
3. 日産サテリオ高知 交通安全フェア 4月	○	-
4. 車庫見学の受け入れ(児童福祉施設) 4月、7月	○	○
5. ローラー活動(棧橋・神田他) 4月、6月、7月	○	○
6. 電車の日イベント 5月	-	○
7. 設置型バスロケ運用開始 5月	○	-
8. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
9. 公共交通体験プログラム<電車とバスで高知をうろちよろ> 6月	○	○
10. 防災訓練 6月	○	○
11. 春・夏・冬休み！バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
12. バスキッズイベント 7月・8月	○	-
13. とさっ子タウン2018 イベント出展 8月	-	○
14. 小学生を対象とした出前授業 8月、9月	○	○
15. 公共交通に関する講演活動(高坂学園生涯大学) 9月	○	○
16. 交通安全ひろば 9月	○	○

内容	路線バス	軌道
■2018年4月1日～12月末まで		
17. ちより街テラス 交通安全フェア 10月	○	-
18. 国土交通省大学 特別講師派遣 10月	○	○
19. 車庫見学の受け入れ(須崎小・附属中 他) 10月、11月	-	○
20. 小学生を対象とした出前授業 10月、11月	○	○
21. クラウドファンディング 看板設置プロジェクトの実施 11月	-	○
22. ローラー活動(船岡南団地・瀬戸東団地) 11月、12月	○	○
23. イルミネーション電車の運行 12月	-	○
24. ドライバー異常時対応システム EDSS動作テスト実施 12月	○	-
25. 公共交通マーケティング研究会スタートアップセミナー 講演 12月	○	○
■2019年1月1日以降		
1. 新春初詣きっぷの発売 1月	○	○
2. 「ダイヤモンドクロッシング」「トリプルクロス」看板設置 1月	-	○
3. ローラー活動(棧橋通2丁目～梅ノ辻) 1月	○	○
4. 小学生を対象とした出前授業 2月	○	○
5. 旭町ソーレ「こうち環境博2019」ブース出展 2月	○	○
6. 車庫見学の受け入れ 2月	-	○

公共交通に関する設備投資の実施状況

2018年4月～12月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2018年度 設備投資計画実施内容】

単位：百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	177	補助車両(5輛)の購入	107	108	安全安心、利便性向上	補助車両(ノンステップバス5輛)購入
		その他	71	29	安全安心、利便性向上	中古車両8輛運用開始、領石回し場路盤改良工事完了 一宮BT建替完了12月5日運用開始(計上は3月)
軌道	157	レール重軌条化工事	50	0	安全安心	大橋通～上町2丁目の一部区間
		分岐器交換	27	0	安全安心	上町5丁目
		き電線改良	12	0	安全安心	後免線、いの線の一部区間
		朝倉待合所 全面改修	12	0	利便性向上	工事着工も完成が翌期に繰り越し ※着工後、床下の土が流出していることを発見
		その他	56	6	安全安心他	電柱建替更新、葛島P&R駐車場整備他完了 4柱式リフトジャッキ、ハートラム貫通幌交換他を予定
合計	334		143			

■一宮BT建替は、棧橋集約費用の一部として2016年度に50百万円を予定し、2017年度へ持ち越したが、土地売却・整備計画遅延により2018年度へ持ち越し

■路線バス低床化率 54.62%(平成30年12月末時点)【路線バス車両数130輛(空港連絡除く)、うち低床車両71輛】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位：百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120	138	137		611	86.9%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116	366	6		664	80.9%